

●ルールを知ればコードなんか恐くない！

- **K氏**：ビックリするようなタイトルだけど、コードもルールにしたがって構成されているという当たり前の話なんだ。ルールさえ知れば食わず嫌いも直っていくのではないかなと思う。
- **C子**：ワタシはとくに食わず嫌いではないわ。しかし、コードの名前というのは正直「ナニこれっ!？」というような感じで、ただ単に鵜呑みをしているといったところね。ルールなんて考えたことはないわ。“ルールを知ればコードなんか恐くない!” とのことだけど、わかりやすく「ルール」を説明していただけるのね。むづかしい音楽理論を引き合いにだしてはだめよ。そのあたりは大丈夫ね？
- **K氏**：無論だよ。僕自身、難しい音楽理論なんか知らない。ということで、お話のメニューだけど、代表的なコードとして **E, A, D** をとりあげ、Em、E7、EM7、Esus4、E7sus4 といったコードのルールについてお話しする。これだけを知っておけば、m7とか mM7、7sus4 といった複雑なコードも上のルールの組み合わせでできていることが分かる。このルールさえ知れば **F, G, C** の Fm や G7、C7 などといったコードも、なるほどそういうことなんだと理解が深まる... と思うけど。
- **C子**：うれしいお話ね！ 早速お話を進めていただけるかしら。

◆コードの基本を復習しておこう!! -----

- **K氏**：コードの基本を少し復習しておこう。音を3つ重ねたものを **3和音 (トライアド)** といい、これは **主音、第3音、第5音** から構成され、主音に当たる第1音を **根音 (ルート)** といったよね。
- **C子**：そうね。明るい響きのする3和音を **メジャー・トライアド**、暗い響きのする3和音を **マイナー・トライアド** といったわ。主音、第3音、第5音の3音は **団子** になっているのね。

The diagram illustrates the construction of major triads and their corresponding chords. It shows five rows, each for a different root note: E (Mi), A (Ra), D (Re), G (So), and F (Fa).

On the left, a diagram shows the interval structure of a major triad: 1 (root), 3 (third), 5 (fifth). The intervals are labeled as 全音2個 (two whole tones) between 1 and 3, and 全音3個 + 半音1個 (three whole tones plus one half tone) between 3 and 5. A blue arrow points to the 5, and another points to the 1, with the text "メジャー・トライアド".

Each row shows the triad on a staff with red triangles marking the notes. To the right of each triad, the corresponding chords are shown: E, EM7, E7; A, AM7, A7; D, DM7, D7; G, GM7, G7; F, FM7, F7. Vertical dashed red lines separate the triads from the chords. A horizontal dashed red line is at the bottom.

On the far left, vertical text labels the intervals: "全音3個 + 半音1個 (完全5度)" (three whole tones plus one half tone, perfect fifth) and "全音2個 (長3度)" (two whole tones, major third).

- **K氏**：そうだね。さて、基本となるメジャーを考えよう。これは長音階なので、主音と第3音の団子の関

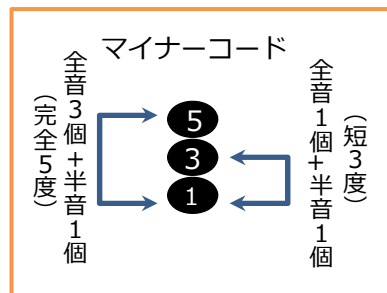
係は全音が2個の長3度、主音と第5音の関係は全音が3個と半音が1個の完全5度という関係にあるんだ。このことを頭に入れて前頁の譜面(破線括弧)を眺めて頂戴。いっている意味が解るだろう。

・C子:なる程ね! 各団子の間にはそのような関係があるのね。ところで、いまのお話はメジャー・コードの場合で、マイナー・コードの場合はどうなっているのかしら?

・K氏:そうくると思った*(^^)*、いい突込みだ。

マイナーの場合は「メジャーの第3音を半音下げたもの」になる。

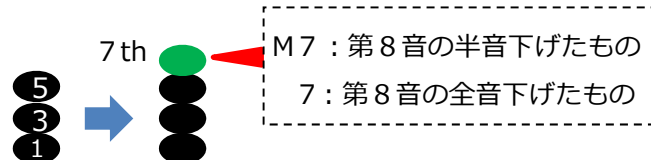
つまり、主音と第3音の関係は、全音1個+半音1個の短3度の関係という訳だ。ただし、主音と第5音の完全5度の関係で変わらない。



・C子: そうなんだ。マイナー・コードのもの悲しげな音は第3音が関係していたのね。ところでE7とかA7というようなセブンス・コードというのはどういうモノなの。

・K氏: うん、セブンス・コードには「メジャー・セブンス・コード (M7)」と「ドミナント・セブンス・コード (7)」があって、例えばGM7はメジャー・セブンス・コード、G7はドミナント・セブンス・コードとか、ドミナントを省き単にセブンス・コードといっている。いずれにしても、メジャー・セブンスというのはその名が示すように「メジャー」の「セブンス」ということで、長音階の第7音のことなんだ。例えば主音が「ミ」なら第7音は「レ」になる。そして第8音は「ミ」になるだろう。○○M7というメジャー・セブンス・コードなら第7音は第8音を半音下げたもの、E7というセブンス・コードなら第7音は第8音を全音下げたものになるという訳だ。

・C子: つまり、3個の団子が4個の団子になり、新たに加わった4個目の団子の位置がメジャー・セブンス・コード (M7)なら第8音の半音下げたもの、セブンス・コード (○○7)なら第8音の全音下げたものになるということね。

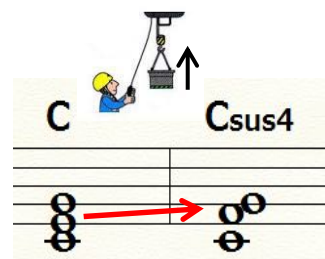


・K氏: その通り!!

・C子: サスフォー・コード (sus4) というものがあるでしょう。これはなに?

・K氏: sus というのは、吊り上げる (suspend) というところからきている。

sus4 というのは、第3音を第4音に吊り上げてつくられるコードなんだ。



・C子: 第3音を第4音に吊り上げるから sus4 というわけか。

・K氏: そうだね。その他、今日は詳しくは触れないけど、オーグメント・コード (○○aug) とかシックス・コード (○○6)、デミニッシュ・セブンス・コード (○○dim)といったものがある。「augmented」は“増加された”という意味で、第5音が半音増加されているんだ。主音と第5音は全音3個+半音1個の完全5度だったのが、aug では全音4個の関係になる。例えば「ドミソ」なら「ドミ#ソ」という調子だ。シックス・コードはM7の代わりに第6音を使ったコードだね。また、dimコードは主音の上に短3度を3個重ねてできているんだ。詳しいことは2015.03.12「その他の代表的コード」のレポートを参照して頂戴。

・C子: まあ、いろいろあるのね。

・K氏: そうだね。いままでの話でコードにルールがあるということが分かっただろう。このルールをマニュアル化した秘伝の書(?)が本日のメインテーマなんだ。ゆっくりとご賞味していただきたい。

■ギター主要コードのルール

★m, 7, M7のルール

- ・ m: 「サン」を半音下げる
- ・ 7: 「ワ」を全音下げる
- ・ M7: 「ワ」を半音下げる

- ・ ⑤・⑧・③を「ゴ」「ワ」「サン」と呼ぶことにします。
- ・ ⑤, ⑧, ③は根音からの度数



根音

E

A

D

★mコード
「サン」を半音下げる

Em

★7コード
「ワ」を全音下げる

E7

Am

A7

Dm

D7

★m7コード
mと7の合体

Em7

★M7コード
「ワ」を半音下げる

EM7

★mM7コード
mとM7の合体

EmM7

Am7

AM7

AmM7

Dm7

DM7

DmM7

★sus4 のルール

- ・ sus4 : 「サン」 を持ち上げる
- ・ 7 sus4 : 「サン」 を半音上げる

★sus4
「サン」 を持ち上げる

★ 7 sus4 コード
「サン」 半音上げる

E
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤

A
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤
ラ ×

D
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤
レ × ×

Esus4

○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤ → ④ ⑧ ⑤

E7 sus4

○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
⑦ ③ ⑧ ⑤ → ④ ⑧ ⑤

Asus4

○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤ → ④ ⑧ ⑤
ラ ×

A7 sus4

○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
⑦ ③ ⑧ ⑤ → ③ ⑧ ⑤ ①
ラ ×

Dsus4

○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤ → ④ ⑧ ⑤
レ × ×

D7 sus4

○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
⑦ ③ ⑧ ⑤ → ④ ⑧ ⑤ ⑦
レ × ×

今までの知識を使えば

F
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤

G
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤

C
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤
×

Fm : 「サン」 を半音 ↓

○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤ → ② ⑧ ⑤

Fm7 : 「サン」 を半音、 「ワ」 を全音 ↓

○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤ → ② ⑧ ⑤ ⑦

G7 : 「ワ」 を全音 ↓

○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤ → ⑦ ⑧ ⑤

G7 sus4 : G7 の 「サン」 を半音 ↑

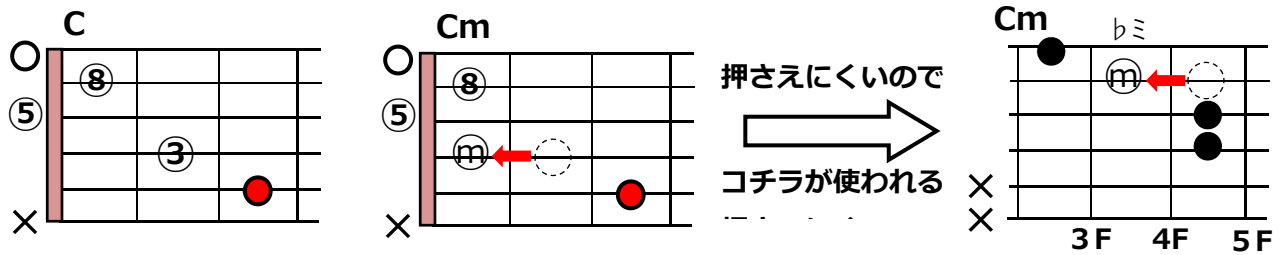
○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤ → ④ ⑧ ⑤ ⑦

CM7 : 「ワ」 を半音 ↓

○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤ → ⑦ ⑧ ⑤
×

C7 : 「ワ」 を全音 ↓

○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○
③ ⑧ ⑤ → ⑦ ⑧ ⑤
×



以上、いかがでしたか。

いちむらまさき「ギター・コードを覚える方法とほんの少しの理論」(リットーミュージック、2015)には、

*

コード名は(アバウトに言っても)1,000種類以上あります。ギターでのコード・フォームは6,000種類はあります。それらを丸暗記で覚えるのは(不可能ではないにしても)無駄です。知るべきは「ルール」です。

*

と書かれています。その数の多さに吃驚しますね。ギターをやり始めるとコードが気になります。特にフォークギター(FG)の場合、コード、コードとうるさいですね。クラシックギター(CG)の場合にはFGほどうるさくはないのですが、コードは共通言語のようなもので知っているのに越したことはありません。ということで、コードを覚えようと張り切るもののその尻からすぐ忘れて、しかし諦めずにまた挑戦。。。といったことをくりかえしながら次第に気力も記憶力も衰退し、そのうちに興味も関心も消え、というのが私自身の経験したプロセスです。

そんなある日、件の本を見つけ、パラパラとページを繰っていくうちに、また興味と関心が刺激され、コードを覚える気はさらさらでないが、せめてコードの構成ルールだけでも理解しておこうという気になり、その結果を自分自身のメモノートとしてまとめてみました。まだまだ不十分な内容ですが、もし本レポートを目にとめられ、もっと詳しいことを知りたいと思われた方は、件の本をはじめ、適当な書籍でフォローしてください。

2016.7 by KENZOU

=====

★おまけ：フォームのズラシ・ルールで見つけるハイ・コードのポジション

コードを押さえる形として次の4つをあげます(他にもいろいろあるが省略)。

- ・ Eタイプ
- ・ Emタイプ
- ・ Aタイプ
- ・ Amタイプ

この押さえの基本形を保持したまま、ハイポジションの方向へずらしてだけでいろいろなコードに変わっていきます。

最上段に基本形を載せておきました。この押さえを崩さないで、1Fセーハ、3Fセーハ、・・・とずらしていきます。

★平行移動ルール (ハイPOS・コード)

	Eタイプ	Emタイプ	Aタイプ	Amタイプ
1Fセーハ				
3F				
5F				
7F				
8F				
10F				